



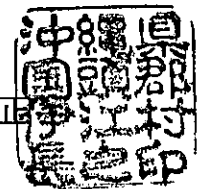
伊 建 第 5 3 5 号

平成20年10月23日

国土交通省道路局長 殿

伊 江 村 長

大 城 勝 正



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼がありました、
みだしのことについて別紙のとおり回答いたします。

近年、本村では既設の道路側溝で排水処理能力を超えた大雨等が発生している。地域によっては雨水による道路の冠水及び沿線上の農地からの耕土流出等が発生し、車両通行や歩行者の安全歩行に支障をきたしている現状がある。

これから、主要幹線道路(県道等)を整備計画する際は道路の保全是基より、沿線上にある民家への水害や計画道路の下流側にある農耕地からの耕土流出被害が生じないような道路整備計画をお願いしたい。

また、勾配のある主要幹線道路の歩道において、交通弱者が転倒した事例があり、今後は集落内における新設歩道整備計画において、車椅子等を使用している身障者並びにお年寄りや子供達が安心して安全な歩行ができるように、歩道面は可能な限り平坦にする歩道計画をお願いしたい。

本村は観光立村であり、村外や県外から多くの観光客が来村されます。地球温暖化の影響もあり、これからは自転車による島内観光が盛んになると思われます。しかしながら、現在の村内主要道路には自転車専用の道路はありません。

地理にくわしくない観光客や修学旅行生が自転車で走行するとき、かなり危険な状態になることが予想されます。これからは地元村民も含め、健康的で自然にやさしい自転車の利用を推進したいと考えます。そのためにも今後、自転車専用スペースを確保しながら、ゆとりのある道路建設を要望いたします。

○現状

本村は周囲を海で囲まれている農業・漁業・観光を主体とした、一島一村です。

本村には川がなく、大雨が降ると農地から耕土が流出し、道路側溝を超え、濁流となって最終的には海岸線まで流れます。

そのため、本村では農地保全と並行して、観光資源である海浜を守るため、道路側溝から流出する雨水等を可能な限り、既設農業用溜池及び未舗装の村道を利用した浸透池等に流入させ、被害を最小限に抑えるよう対策を講じています。

しかしながら、予期せぬ大雨が発生した場合、既設道路側溝では対応できず、主要幹線道路の側溝から雨水が溢れ、その影響で下流側にある農地から耕土が道路 路面上に流出し、車両交通等に支障をきたし、歩行者が危険な状態になることがある。

また、本村では伊江島一周マラソン、ゆり祭り、民泊事業等の地域活性化に取り組んでいます。

特に修学旅行生による村内一周サイクリングが盛んであり、十数人単位で自転車を走行しながら道路一面に広がり、地元住民や観光客のドライバーから、大変危険な行為であると苦情が絶えません。道路管理者として再三注意をしている状況です。

自転車による島内観光は今後とも増える傾向です。しかしながら、本村には自転車専用道路はなく、早急に整備する必要があります。

それと並行して道路上及び歩道上には極力、電柱等の障害物をなくし、地下埋設型に移行したいと考えています。

○課題

主要幹線道路(県道等)の整備における排水断面の検討

伊江島一周の自転車専用道路の整備

無電柱化の推進

本村では、年間延べ約 440,000人の人々が村営のカ・フェーリを利用し、また民泊事業による体験学習として毎年約 35,000人の修学旅行生が伊江村に来島しています。

本村が目指すべき将来像は下記のとおりです。

記

1. バリアフリー対策として、高齢者が安心歩行できる道路整備
2. 児童生徒が安全のうちに登・下校ができる歩道付道路整備
3. 電柱等の支障物がないゆとりのある道路整備
4. 台風・大雨等の災害に対処できる道路整備
5. 地域活性化としての自転車専用道路の整備

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

沖縄県 伊江村

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・少子・高齢社会 に対応した子育て 環境、バリアフ リー社会の形成	歩道の整備	ゆとりのある対面交通	歩道部の拡幅
・総合的な交通安 全対策及び危機 管理の強化	無電柱化の推進 道路側溝の整備	台風時の通信網の確立 路面水による耕土流出防止	電線類の地中化
・地域活力の向上	自転車道の整備	民泊事業等の活性化	伊江島一周の サイクリング専用道